

滋賀県介護のイメージアップ施策検討部会 (令和元年度 第3回)

- 日 時 令和元年12月25日(水) 10:00~12:00
- 場 所 滋賀県大津合同庁舎7-A会議室
- 出席委員 後藤部会長、東副部会長、本條委員、樋口委員、北村委員、森本委員、河岸委員、鈴木委員、楠神委員、藤田委員

オブザーバー 寺田氏

○ 議題

- (1) イメージアップ施策にかかる啓発イベントおよびマスメディア活用の意見交換について
- (2) その他

1. 挨拶

【事務局】

- 本日は、イオンモール鈴鹿での現地調査の結果を報告するとともに、来年度のイベント等の事業の状況についてご検討をお願いしたい。

2. 議題(1)について

【副部会長】

- 現地調査結果の補足として、三重県の担当者と話させていただいて最初に感じたことは、三重県のイベントは人材確保が目的ではないことから、本県とは趣旨が異なるということ。
- 三重県介護福祉士会が毎年、介護技術コンテストを実施されていて、イベントにおいてはその表彰式をされていた。私からするととても良い取組であると感じた。また、介護技術コンテストのイメージビデオについても、今どきは福祉用具を使って抱えずに介護をするんだということなどが伝わりやすいものだったので参考になった。コンテストの優勝賞品がデンマーク旅行ということも驚いた。
- イオンの中でいくつかに分かれてブースを設けていたが、人が集まる場所にはビンゴや商品があったり、子どもが喜ぶものがあったと思う。無料の健康チェックも皆さん興味持って並んでおられたと思う。定員がすぐに埋まった映画上映は、ドリンクとポップコーンが無料であったことで、介護関係者ではない一般の方も参加されていたことが良かったと思う。スタンプラリーも参考になると思う。

【委員】

- 一番印象に残っているのは介護技術コンテストを行っているということ。一般の方が、実際に介護をしているところを見る機会は少ないと思うので、一般の方がそれを見ると好評を得られるのではないかと思った。例えば、コンテストの全国大会が開催できるようになって、メディアも取り上げてくれれば大きなアピールになるのではと思う。昔の介護福祉士の実技試験のようにお題に対応するといった形で実施されているので、介護の世界としては見た目が良いという印象を受けた。
- 三重県の取組としては、まばらにブースがあるので一体的に介護の取組をやっているという宣

伝が少なかった。また、鈴鹿市内の方の参加がほとんどということだったので、イベントの周知については、本県での実施においても課題になると思う。

【委員】

- 具体的なイベントの周知方法はどうか。
- イオンモールのHPにも掲載されるか。
- イベント目的の来場者とそうでない方の割合はどうか。

【事務局】

- チラシを県内市町や各市社協、鈴鹿市内の自治会にも配布と聞いている。
- イオンモールのHPにも掲載されているはずで、イオンモール草津でもその協力依頼は可能。

【副部会長】

- 来場者の割合は半々と感じた。介護関係者の方もおられれば、たまたま買い物ついでに来場されている方もおられたと思う。健康チェックは一般の方ばかりだった印象。

【部会長】

- 確認しておきたいが、ワーキングチームを作って一から練っていくイメージを持たれている委員もおられるかもしれないが、どこかの専門業者を入れてイベントを作り上げていく過程で情報共有しながら皆さんの参画できる部分を探っていくような形で、あくまでこの部会で作っていくということになるので、そうした中でたたき台を示してもらっている。
- ある意味で白紙ではあるが、会場のイオンモール草津については県の協定があるということ。

【事務局】

- イオンと県で包括連携協定を締結しており、県の会場使用について公益性が先方に認められれば、会場使用料の優遇が受けられるため、大きなメリットと考えている。

【委員】

- 開催時期は決まっているか。

【事務局】

- 介護の日の11月11日に近い土日で考えていて、例えば来年であれば11月7日または11月8日。

【委員】

- 11月の介護の日に関連したイベントは県内でもたくさん開催される。どちらが良いかわからないが、県内で数多くのイベントをしたほうが良いのか、集約したほうが良いのか。三重県のイベントのように講演会をするなら、地域創造会議の講師を呼んでできるのではないかと思う。そのあたりを連携しながら上手に人を集めて一か所で大きいものを開催しても良いのではと感じた。

【事務局】

○この部会では、人材確保のイベントとしてお示ししているが、委員がおっしゃたように当課でも同じ時期にイベントがあるので、他のイベントとの同時開催も可能となるように想定している。

【事務局】

○地域創造会議については幹事に諮っていないので、まだ何とも言えないが、委員がおっしゃったとおり今年の地域創造会議は他のものと重なり集客ができなかったこともあり、当課としてはできればまとめていきたい。一方で、地域創造会議はアドバンスケアプランニングや人生会議のようなものをテーマにすることも考えており、話題が「死」に寄って行くので、当部会のイベントに馴染むのかどうかの検討も必要。地域創造会議もイオンモール草津で開催したことがあり、イオンシネマも考えられるので、場所としては可能と思っている。

○また、イベントが集中した方が良いのか、別の時期にしたほうが良いのかについては、介護の日を目当てに様々なイベントを開催していただいている中で、時期としては近接しているほうが良いのではと思うが、調整は必要と思う。

【委員】

○三重県の知人3人にイベントの事を聞いたが知らなかった。会場の近くに住んでいてもそうなので、集客のための周知方法を考える必要があると思う。

○人材確保が趣旨なら、そのためのイベントも入れないと趣旨がずれてしまう。

○目玉になるような企画やブースも必要。また、例えば直後の就職説明会の日を決めておいて、そこへ繋げられるようなチラシを配るなり、次に繋がるイベントにしたほうが良いと思う。

○心配なのは、土日のイオンモール草津は交通が渋滞し駐車場が混雑すること。

【委員】

○小さい子どもにビンゴは良いと思うが、就職に繋げていくと考えると、小さい子どものいる親よりもひと世代若い方に来てもらう必要があり、その方たちの集客にビンゴが有効なのかどうかと思う。

【委員】

○三重県の来場者数を細かくみていると、介護食やイオンシネマのところは集客があるが、介護の部分の客数は少ないと感じた。その中でも光るものがあるとすればハルの介護ロボットで、集客数から見ると一般の方にも関心を持ってもらうきっかけになるのではと思う。初めての方でも見てみたいと思えるもので集客をしつつ繋げていくのが良いのではと思う。

○また、入口から出口まで全て盛り込んでしまうよりは、ある程度ターゲットを絞るほうが良いと思う。

【オブザーバー】

○介護の人材に繋げることもそうだが、もともと介護のイメージが無い方が多いということで、人材に繋げるまではいかなくても介護のイメージ付けはこのイベントではできるのではと思

う。

○寄ってもらって介護のイメージ付けから入っていくなら、宮崎県のお笑いイベントのようなことも有効ではないかと思う。

【委員】

○各委員からあったように開催時期やターゲットをどうするかは考える必要がある。また、予算的な枠組みが必要になってくる。

○いつも人材というと、南北で一か所ずつというような話があって、初回なので草津・大津エリアあたりをターゲットにということだと思うが、滋賀県全体で考えた時に南北の分散開催もあって良いのではと思う。

○介護という言葉が三重県・宮崎県でもそれぞれ出てきているので、オブザーバーがおっしゃったように人材確保までいなくても、あくまでイメージアップというところで、次の就職フェアなどの案内を渡す程度でも良いのかなと思う。

○メインタイトルを絞りこんで決めると、それに向かって進んでいくのではと思う。

【事務局】

○人材確保の視点を入れるべきということについて、イオンホール等でふく楽カフェや就職相談は考えられると事務局としても思っていたところ。ただ、どういう方が来られるかにもよるが、例えば通りすがりの方が急に就職相談になるとは思えないので、どちらかという PR のような形になるのではないかと思っている。そこから、委員がおっしゃったように次のイベントに繋げていくという形で良いのではないかと聞きながら考えていた。

○どういう方を呼び込むかについて、イオンモール草津で地域創造会議をした時は、集客という意味では人はたくさんいるが、通りすがりの方は関心を持って見てくれるわけでもなかったもので、そこは中々難しいところ。集客は図れるのだと思うが、やはりイベントのために来る方を増やしたい。そこは必ずしも就職のターゲット世代でなくても良いのではないか。以前の話では教員や親のイメージが悪いということであったので、将来の介護人材のイメージを高める意味でも子育て世代の親にも関心を持っていただけるのではないかと思った。

【委員】

○介護に興味を持ってもらった延長上に、働く選択肢に入ってくると思うので、イベントの趣旨の極端な絞り方はできないと思った。そうした中で色んなイベントが出てくるのかなと思う。

○事務局がおっしゃったように、イオンホール等でふく楽カフェや各種相談、あるいは就職フェアの情報提供はできるのではと思う。具体的に仕事を探していく色が濃い場所にはなるが、それはそれで打ち出しておけばそこに目がけて来られる方もいると思うし、それ以外にもイベント全体の中で知ってもらえることもあると思う。

【事務局】

○今年度の初めに、介護のファッションショーをされている方を、事業者協で呼んで講演された印象はどうだったか。

【委員】

○特別養護老人ホームの中でファッションショーをされて、高齢者を活性するという話だった。

【部会長】

○高齢者の方が化粧して、服も着飾るといもの。ご家族も職員も普段見られない本人の姿を見て感動されている映像があった。

【委員】

○イベントの後に繋げるために就職フェアのチラシを配るといもの、個人的には捨ててしまうので、例えば就職フェアでもらえるクオカードの引換券をそこに付けるなども呼び込み策になるのではないかと。

【副部会長】

○スタンプラリーの最終が就職フェアとか。

【部会長】

○メインゲストは大事。三重は安藤さんで集客している。

【事務局】

○メインゲストはセントラルコートに絡めて、そこに集客させたい。例えば、介護に関係する方だけでなく集客を見込める方であっても良いと思う。介護を知らないゲストがイベントを通じてどのように感じたかを発信していただくことで、同じ立場にある方達にも共感を得られるのではないかと。

【部会長】

○私もそれは面白いかなと思う。ゲストの長時間の拘束が可能かどうかはあるが、介護に関係していないところからということも良いかなと思う。

【部会長】

○各団体から具体的ところを引き出せるまでは至らなかったが、今日のご意見をいただいて事務局に持ち帰っていただく。

【事務局】

○事務局において、各団体での魅力や情報発信の取組について把握できていないので、その情報もいただきながら練っていきたい。また、ご意見いただいたイベントを実施した後への繋がりに関しては、介護の仕事を知って行く入り口として位置づけ、人材センターへ繋いでいくというように考えられる。人材センターでは各種登録者への情報発信があり、例えば気軽に登録できる LINE の登録を来場者に勧めていくことも考えられる。

○なお、イベント当日の運営や演出の詳細は翌年度以降も詰めていく必要があるが、当部会の今年度での到達については、少なくとも、出展していただく団体の協力を得ることと、各団体の出展の内容を決めていきたい。

【部会長】

○テレビ滋賀プラスワンでは委員の百伝の杜に行かれたが、どのように撮影されたのか。

【委員】

○プロがつくると編集の段階で魅せるような形になるので、プロは入れたほうが良いと思う。利用者や職員の表情なども拾っていくので、インパクトがあるものになる。

【事務局】

○宮崎県の映像にもあったように、職員だけでなく施設の中も撮影できる方が良いと思うので、利用者の方に対する了解も得ながら撮影できたらと思う。

【委員】

○内容についてもう一つ加えるなら、介護は介護職だけでしているのではなく医療とも連携し、住民とも連携している。滋賀県内には他職種連携の場がたくさんあるので、そういう紹介もあると良いと思う。

【発言者混在】

- 三方良し研究会。
- 看取りの会議など。
- 認知症カフェもある。
- 地域に広がっている。

【委員】

○イベントについてだが、地域共生や地域福祉の視点でもっと広がりを持たすなら、例えば障害福祉課にも声をかけておいて、共同作業所で物販されているところに参加してもらって雰囲気盛り上げることや、知的障害者の介護施設への就労支援も滋賀県で取り組んでいるので、そういう繋がりや広がり考えたほうが良いと思う。

【部会長】

○私もそう思う。今人材のコンサルを入れているが、学生は介護だけしかしていないというイメージが強いので、地域の取組やまちづくりのところまで考えつつやっているということもアピールできると、もっと広がりのある内容ができるのではと思う。

【委員】

○作った動画を各法人や事業所で使っていけるような仕組みが良い。

【事務局】

○使っていただけるように、著作権は県にあるようにしたい。例えば、学校への出前講座などでも活用していただきたいと思う。

○委員の事業所では中学校に出前講座を行っておられるが、動画の活用についてはどうか。

【委員】

○正直、動画はあまり持って行ってない。過去は介護ロボットのペッパーを持って行ってレクレーションしたり、介護ロボットのハルを体験してもらったり、レクレーション機材のディーケーエルダーでレクレーションの紹介をしたりしてきた。最近は車いす体験が多い。学校の先生の協力を得てテレビ番組のモニタリングのようなこともした。

【委員】

○うちは法人の30周年の時に事業紹介のDVDを作ったので、それを持って行っているときもあるが、小中学校に行くときはリフト車に車いすを積んで行って外で体験をしている。小学生はリフト車に興味津々。メガネなどによる高齢者の疑似体験などは、福祉に興味なくても入りやすく、それを経てから仕事の紹介をしている。

【事務局】

○内容の例はこれでいいと思うが、宮崎の映像のように人に焦点が当たってその人のストーリーが想像できるようなものでないといけないかなと思うので、1話ごとに焦点を当てる人を紹介いただきたい。例えば、サービス・仕事の紹介はベテラン、資格・キャリア・労働環境は施設長、特長のある職員なら中堅やチームリーダー、多様な人材は知的障害者や外国人など。

【部会長】

○イベントとマスメディアについて今日ご意見いただいて、この場でまとめるということにはならないので、事務局の方に持ち帰っていただくということによろしいか。

【事務局】

○本日も色んなご意見ありがとうございました。

○イベントに関しては各団体の協力について、ぜひ同意いただければと思う。また、このようなことができるといったご提案をいただけるとありがたい。部会の場でそういった情報共有を行い、それをもって翌年度の詳細案に繋げていけたらと考えている。

○イメージアップという言葉が部会でも使っているが、一方でイメージアップという言葉や見方自体が馴染まないという意見もある。実状や実態をそのまま伝えることが大切で、また、それによって応援団を作っていくことに繋げていくのだろうというような意見もあるので、そういったことも踏まえつつ、今後の議論が展開できたらと思っている。

以上